

公 共 事 業 再 評 価 調 書

平成 27 年 2 月 19 日 現在

1. 事業概要及び事業の必要性

事業名	戸畑地区国際物流ターミナル整備事業																	
事業箇所	戸畑区川代二丁目																	
事業化年度	平成12年度	事業期間	平成12年度～平成39年度															
全体事業費	2,200百万円	補助区分	補助事業															
関係事業 (他団体含む)																		
事業担当課	港湾空港局 整備部 計画課 (連絡先: 321-5967)																	
事業を必要とする地域の課題・事業目的	<p>川代埠頭では、若戸大橋の渋滞緩和やひびきコンテナターミナルへのアクセス強化を目的とした新若戸道路が通過するため、ルート上の民間倉庫等の撤去、移転が必要であった。このため、新若戸道路の整備にあわせ、老朽化した川代ふ頭の再編と船舶の大型化に対応することを目的に、平成12年度から岸壁と泊地の整備に着手し、川代ふ頭の機能を高め、企業の物流活動や生産の基盤強化を図ってきた。</p> <p>ところが平成16年度に、施工箇所である泊地の底質からダイオキシンが検出され、ダイオキシンの除去・処理には約60億円の費用を要することが判明した。</p> <p>ダイオキシンの除去については、本事業の目的と異なるものであるため、公害防止対策事業により実施すべきであるが、ダイオキシンを含む土砂の処分先(管理型の廃棄物処分場)が現在整備中であり、平成34年度以降受入が可能となる。</p> <p>本事業については、ダイオキシンの除去が完了後、泊地整備を実施する。</p> <p>※ダイオキシンからの溶出はなく、覆砂していれば、問題ないとの専門家の意見が出されている。現在覆砂し、モニタリングを行っている。</p>																	
事業内容	<p>○岸壁再整備</p> <p>既設岸壁より栈橋型式で岸壁を前出しすることで、岸壁の老朽化に対応し、適正なエプロン幅(20m)を確保する。</p> <p>また、船舶の大型化に対応した水深を確保するため、泊地の浚渫を行なう。</p> <p>【完成済】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">岸壁(-9.0m)：延長</td> <td style="padding-left: 20px;">160m</td> <td style="padding-left: 20px;">(着手：H14年度、完成：H16年度)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">岸壁(-7.5m)：延長</td> <td style="padding-left: 20px;">130m</td> <td style="padding-left: 20px;">(着手：H12年度、完成：H14年度)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">岸壁(-5.5m)：延長</td> <td style="padding-left: 20px;">100m</td> <td style="padding-left: 20px;">(着手：H20年度、完成：H22年度)</td> </tr> </table> <p>【残事業】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">泊地(-7.5m)：浚渫土量</td> <td style="padding-left: 20px;">7,500m³</td> <td style="padding-left: 20px;">(着手：H16年度、完成予定：H27年度)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">泊地(-9.0m)：浚渫土量</td> <td style="padding-left: 20px;">71,000m³</td> <td style="padding-left: 20px;">(着手：H16年度、完成予定：平成39年度)</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">※整備期間：H37年度～H39年度</p>			岸壁(-9.0m)：延長	160m	(着手：H14年度、完成：H16年度)	岸壁(-7.5m)：延長	130m	(着手：H12年度、完成：H14年度)	岸壁(-5.5m)：延長	100m	(着手：H20年度、完成：H22年度)	泊地(-7.5m)：浚渫土量	7,500m ³	(着手：H16年度、完成予定：H27年度)	泊地(-9.0m)：浚渫土量	71,000m ³	(着手：H16年度、完成予定：平成39年度)
岸壁(-9.0m)：延長	160m	(着手：H14年度、完成：H16年度)																
岸壁(-7.5m)：延長	130m	(着手：H12年度、完成：H14年度)																
岸壁(-5.5m)：延長	100m	(着手：H20年度、完成：H22年度)																
泊地(-7.5m)：浚渫土量	7,500m ³	(着手：H16年度、完成予定：H27年度)																
泊地(-9.0m)：浚渫土量	71,000m ³	(着手：H16年度、完成予定：平成39年度)																

2. 事業費用内訳

(単位：百万円)

		総事業費 (計画)	～H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (予算額)	H27 (計画)	残事業費 (計画)
事業費	工事費	2,070	1,735	0	21	0	314
	用地・補償費	0	0	0	0	0	0
	調査費等	130	108	0	7	0	15
	計	2,200	1,843	0	28	0	329
財源内訳	一般財源	117	99	0	1	0	17
	国庫支出金	1,034	856	0	14	0	164
	県支出金	0	0	0	0	0	0
	地方債	1,049	888	0	13	0	148
	その他	0	0	0	0	0	0

3. 事業進捗状況

		～H24	H25	H26	H27	H28
計画進捗率 (平成21年度時点) 終了予定25年度		92%	100%	100%	100%	100%
実績進捗率 終了予定39年度		84%	84%	85%	—	—
内訳	工事費	84%	84%	85%	%	%
	用地・補償費 (面積ベース)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
	調査費等	83%	83%	88%	%	%
事業進捗状況及び見込み	平成12年度	岸壁(-7.5m)事業着手 基本設計・実施設計				
	平成14年度	岸壁(-7.5m)完成				
	平成16年度	岸壁(-9.0m)事業着手				
		岸壁(-9.0m)完成				
	平成18年度	泊地(-9.0m)、泊地(-7.5m) 深浅測量・調査、ダイオキシン発見			平成18年度～平成24年度 ダイオキシン処理検討	
	平成20年度	岸壁(-5.5m)事業着手				
	平成22年度	岸壁(-5.5m)完成				
	平成26年度	泊地(-7.5m) 事業着手			平成34年度～平成36年度 ※公害防止対策事業により ダイオキシン除去	
	平成27年度	泊地(-7.5m) 完成(予定)				
平成37年度	泊地(-9.0m)事業再開					
平成39年度	泊地(-9.0m)完成(予定)					

4. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

少子高齢化に伴う社会保障費などの増大に伴い、公共事業費の予算確保が年々困難な状況となっている。

5. 地元住民、受益対象者及び関係機関の意向

岸壁の工事進捗により、取扱貨物量は 20 万トン(平成 25 年実績)まで順調に回復している。
また、ヒヤリングからも関係港運業者は、岸壁(-9.0m)、泊地(-9.0m)の対象となる 10,000DWT 級以上の船舶の利用を計画しており、早期整備を望まれている状況である。

6. 事業の投資効果やその変化

本事業は、鋼材を中心に貨物を取り扱っていた川代ふ頭の、新若戸道路の整備に伴い失われる岸壁等機能を復元するものである。そのため、便益の算定にあたっては、新若戸道路整備に伴い岸壁等機能が消滅した時点における、本事業を行った場合と行わなかった場合を比較している。

具体的な便益としては、ふ頭機能の喪失に伴い、これまで戸畑 3 号~5 号岸壁で荷役されていた貨物を響灘東地区の岸壁などで取り扱うこととなり、川代ふ頭背後倉庫までの横持ち費用が発生することから、この横持ちに要する費用を便益として計測する。

◇今回評価

費用便益費 B/C : 1. 7

- ・便益 B : 57.4 億円
- ・費用 C : 33.3 億円
- ・想定貨物量 25.2 万トン/年

◇前回評価 (H21 年度)

費用便益費 B/C : 1. 4

- ・便益 B : 39.3 億円
- ・費用 C : 33.3 億円
- ・想定貨物量 19.5 万トン/年

<前回再評価時からの変化について>

・便益対象想定貨物量の変更

当事業は、新若戸道路の整備に伴い、従来利用されていた岸壁が利用できなくなるため、復元することを目的として岸壁および泊地の整備を行うものである。このため将来の取扱貨物量は、利用が可能であった最終年(平成 12 年)の取扱貨物量が回復すると想定している。

前回評価時においては関連工事の影響で利用できなかった岸壁(-5.5m)を除く岸壁では荷役作業が可能であったことから、響灘東地区岸壁から徐々に当ふ頭に貨物量が戻ってきていたため、評価前年(平成 20 年)の取扱実績をもとに貨物量を想定した。

今回評価時においては、当該年度全ての岸壁が利用できる事となるため、工事開始前時点(平成 12 年)の取扱貨物量を想定貨物量と設定した。なお、評価年(平成 26 年)の取扱貨物実績は、工事開始前時点(平成 12 年)の貨物量並みに回復傾向である。

7. コスト縮減又は代替案の可能性

コスト縮減又は代替案は現段階では特にない。

8. 見直し（縮小・休止・廃止・事業期間の延長等）した場合の影響

川代泊地ふ頭の取扱貨物は、近接工場等で使用される生産原料をふ頭内の倉庫で保管されており、代替バースで対応している間は、貨物の横持ちが生じ、物流コストが増加している状況である。当ふ頭には、当事業の開始前から岸壁（-9.0m）を利用し荷役が行われていたことから、横持ちによるコスト増加を解消する必要がある。

また、近年の海上輸送は物流コストを削減するため船舶の大型化が進んでおり、岸壁（-9.0m）が既に整備済であることから、当ふ頭を中心とする物流の効率化、背後地区の活性化を図る上で残事業である泊地（-9.0m）の整備は継続して実施する必要がある。

9. 事業担当部局の考え方

船舶の大型化に対応するために、泊地（-9.0m）の整備は必要である。しかし、ダイオキシンの除去は本事業目的とは異なることから、公害防止対策事業でダイオキシンの除去を行い、その後、本事業である改修（国際拠点）事業予算での整備を行う。

北九州港 戸畑地区 国際物流ターミナル整備事業

